

病害虫発生予察特殊報第1号

平成21年 1月19日
三重県病害虫防除所

本県において、キクわい化ウイルスによるキクわい化病の発生が初めて確認されたので特殊報として発表します。

- 1 病害虫名 : キクわい化病
- 2 病原名 : キクわい化ウイルス *Chrysanthemum stunt viroid* ; CSVd
- 3 発生確認作物名 : キク
- 4 発生確認地域 : 伊勢市、玉城町

5 発生確認の経過

伊勢市で栽培されているキクにわい化の症状が見られたため、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構花き研究所の松下陽介研究員に同定を依頼しましたところ、キクわい化ウイルス (CSVd) が検出され、キクわい化病であると判明しました。

本病は、昭和 52 年 (1977 年) に静岡県で初めて確認され、その後ほぼ全国に発生が拡大しています。

6 病徴

- ・茎の節間が短縮し、草丈が短くなります (写真1)。
- ・葉は小型化し、葉色がわずかに淡くなります。
- ・花は小型化したり、開花が早まることもあります。
- ・本病に感染した挿し穂は発根不良となります。

7 発生生態

- ・主要な伝染源は、罹病したキク (病徴が現れていない株も含む) です。そのようなキクの摘蕾、切り花、台刈りなどの作業によって伝染します。
- ・罹病したキクの残さが混入した用土で育苗したり、苗の植え付け時に罹病苗の根と健全苗の根が接触すると伝染する可能性があります。

8 防除対策

- ・薬剤による防除はできません。
- ・罹病苗を圃場に持ち込まないことが重要です。このため、病徴が認められた圃場では、親株を無病苗に更新してください。
- ・罹病株の残さが混入した育苗土は使用しないでください。
- ・罹病株は速やかに抜き取り、袋等で密閉して腐敗させる等適切な処理を行ってください。
- ・作業時には、頻りにハサミを替えるか消毒するかして、汁液による伝染を防いでください。
- ・無病徴でも感染している可能性があるため、新しく導入した品種では取扱に注意してください。



わい化症状（写真1）

○ウイロイドとは

- ・ウイルスよりも小さく、一本鎖環状 RNA からなる病原体です。
- ・ウイロイドに感染した植物はわい化や退色など様々な病害が引き起こされます。
- ・本ウイロイドは人畜には感染しません。

住所 三重県松阪市嬉野川北町 530

電話 0598-42-6365

FAX 0598-42-7568

URL <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>